



議案に賛成の手をあげる参加者＝5月24日、保険医会館

第49回総会

国民との共同で歯科医療の改善を

混合診療拡大阻止などの重点課題可決

協会は第49回定期総会を5月24日、保険医会館で開き、第1号議案「情勢、2007・2008年度活動のまとめ、2009・2010年度活動方針・重点課題案」第2号議案「2008年度決算報告案」第3号議案「2008年度収支差額処理案」第4号議案「2009年度予算案」第5号議案「名誉役員、事務局長の承認を求める件」をすべて賛成多数で可決した。議長を新宅雅文氏、副議長を平川光彦氏が務め、会員、役員32人が出席した。

総会は、伊津進弘理事長が挨拶でスライドを交えて情勢と活動方針を説明した。伊津氏は、会員数が2年間で実増76人と着実に伸びていること、情勢について「2006年の歯科医療費は2001年から1千億円減って、国民医療費に占める割合は7・6パーセントまで低下した。レセプト点数も減

少、収支差額が月あたり4万円下がっている。経費は上がっており、歯科医院の経営が大変厳しくなっている。それを労働の強化でまかなっている」と述べた。

また、保団連の労働実態調査をもとに「歯医者」が1人の患者をみる理想の時間は39・1分だが実際は25・4分で診療しており、この差を埋めるには1医院あたり0・7人、全国では6万5500人の増員が必要で、政策によってはまだまだ歯医者が必要になる」と紹介した。

オンライン義務化反対 混合診療拡大阻止など 活動の重点課題

活動の重点に、①医療費総枠を拡大して患者負担を引き下げる②診療報酬の引き上げ③レセプトオンライン請求義務化反対④指導・監査強化への対応⑤混合診療拡大阻止、選定療養に反対する⑥大阪府の医療費助成拡充――などを挙げ、国民、医療界との共同を広げ歯科医療の改善を目指す、協会活動の方針を示した。



コント仕立ての撮影風景、出演者の土田仁広報委員(左)と寺谷一紀アナウンサー(右)

協会TV番組『医療どお～ナル』

「守りたい！子どもの健康」

6月3日から第3回放送スタート

テレビを通じて、医療の大切さや問題点を伝える『医療どお～ナル』。歯科版の第3回目となる放送が6月3日からスタートした。

今回のテーマは「守りたい！子どもの健康」として、医療費助成制度の都道府県や市町村による格差の問題を取り上げた。導入部分のエピソードでは、小学校で歯科健診を受けて帰ってきた子どもから母親にむ

送が6月3日からスタートした。

期36年の永田悦夫氏を顧問に選出した。事務局長には志岐敬氏を選出した。

総会にメッセージを寄せた国会議員

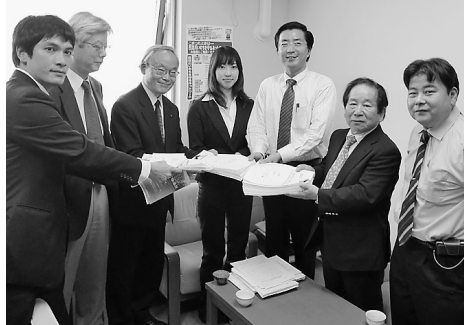
(順不同・敬称略)

(自・衆) 川条志嘉、竹本直一、中山泰秀、松浪健四郎、松浪健太

(公・衆) 池坊保子、北

(民・衆) 長安豊、平野博文、藤村修(同・参)尾立源幸、松岡徹(共・衆) 吉井英勝(同・参) 山下芳生(社民・衆) 辻元清美

共済の今日と未来を考える懇話会 地域医療を支える共済を守れ 適用除外求め国会内集会・議員要請



面談した吉井英勝議員(上、右から3人目)と山下芳生議員(下、右から3人目)＝5月21日、議員会館内

「共済の今日と未来を考える懇話会」は5月21日、自主共済の保険業法からの適用除外を求めて国会内集会を開き、全国の地域懇話会から80人が参加した。協会の下井戸昭介共済部長、山上純志副理事長はじめ医科協会、大阪労働組合共済会、大阪教職員組合共済会から7人が

染が広がっている新型インフルエンザと開業医の役割について触れた。疑わしい症状が表れた患者は、かかりつけの医師を受診して初めて感染の可否が判明していることが多く、万一、医師自身が感染し休業した場合

の保障は患者を受け入れるために欠けない。山上氏は「我われの休業保障共済制度は会員だけでなく、地域医療を支える役割も果たしている。感染症が蔓延している今、互いに助け合う共済制度はなくてはならない」と述べ、各団体の共同で全ての自主共済の適用除外を勝ち取ることを訴えた。持参した適用除外を求める請願署名4134筆は、面談した吉井英勝(共・衆)、山下芳生(同・参)両議員と、辻元清美(社民・衆)、梅村聡(民・参)両議員秘書に託し、保険業法の運用を早急に見直すよう要望した。

共済部長・下井戸昭介 自民党は3月下旬にPTA共済存続のための法案骨子をまとめた。これは運動の前進面の一つといえるが、特定の団体に限った法案の検討は、国・金融庁が監督可能な根拠法の中に既存の共済制度を押し込めようとする誘導の側面があることに留意が必要。PTA共済も法案によって行政の監督を受けることになり、こうした動きによって制度運営に苦慮する団体が分断されないよう動向を注視したい。

6月の放送日は、6月(10日、17日、24日)水曜午後5時15分から3分30秒、サンテレビ。

番組では、こうした実態を知らせながら、最低でも対象年齢を就学前まで無料とする国の制度の必要性を訴えている。

子ども医療費助成制度は、現在、全国全ての都道府県で実施されている。しかし、都道府県ごとに大きな格差がある。通院だけでも、東京都では中学校卒業まで助成されるが、大阪府では3歳未満とばらばらだ。もちろん大阪府は全国最低である。また府下の市町村でも、上は富田林市の小学校3年生までから、池田市や守口市、四條畷市の3歳未満までと大きな開きとなっている。この他、入院の対象年齢や窓口負担の有無など、自治体により内容は大きく変わる。

番組では、こうした実態を知らせながら、最低でも対象年齢を就学前まで無料とする国の制度の必要性を訴えている。

元来、鳥は他の動物より行動半径が広く、ウィルスが世界旅行に便利に使っていたが、今や人間と商品が航空機で移動しなくなり、病原微生物の拡散を助けている。マスク着用の他に、不要不急の外出やイベントの中止と遠方汚染地域への参加自粛が求められる。それにしても国連ごっこをはじめ、高校生が家で勉強するよりも外国へ出かける機会の多さには驚かされる。費用負担する親連は、給食費も払えない親連とは別の勝ち組の親なのだろうか。豚ウイルスまでが世界を駆け巡る。何年か先には犬、猫などペット・ウィルスが流行してペット用マスクが品薄になったり、ペット・ウィア業界が慌てたりしそである。

PR増刷号

今号はPR版として大阪府下の全歯科開業医にお送りしています。ご入会、協会の概要についてはお気軽にご連絡下さい。

この新聞を送るに際し、近畿厚生局・各種名簿などにより情報を取得致しました。この情報は、ご入会や講習会、各種共済制度のご案内、新聞の送付以外に利用することはありません。「今後の郵送を断る」などの申し出があれば、事務局までご連絡ください。

《ご連絡・お問い合わせは組織部まで》
Tel.06-6568-7731

歯界

英語圏の庶民は風邪もインフルエンザもまとめて「フル」と言う。メキシコ発のH1N1の新型は、関西での急速な拡大と恐らく日本でのマスク騒動がテレビ報道されて、まるで日本発の疫病みたいに「ジャボ・フル」なんかと呼ばれているらしい。